

Monthly Letter



地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(平成27年度～平成31年度)
『地域創生の担い手を育み活気あふれるふくいを創造する5大学連携事業』
福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀市立看護大学

平成28年度後期 COC+開講授業風景をご紹介します!(その1)

10月1日(土)から大学連携センター(Fスクエア)で後期の授業が始まりました。これら授業について、来年3月までの予定で、順次、授業風景をご紹介します。

福井大学 細谷 龍平先生 水曜3限「国際社会と外交」

「架空の国際機関を日本・福井へ誘致する上で他国へどのようにアピールをし、福井へ誘致ができるのか」をテーマに2チームにわけてプレゼン→質問・反論→応答する討論形式で行っていました。学生は事前に自分の考えをまとめており、チームで打ち合わせしている姿は真剣そのものでした。討論会后、細谷先生の外交官時代のご経験をもとに考え方や解決策をお話をされており、学生は熱心に聴いていました。

授業が終わった後、学生から「事前に自分の考えをまとめる作業が難しかった」という声がありましたが、無事終わったという達成感で出た笑顔がとても印象的でした。

(取材日:平成28年11月16日)



福井県立大学 福井テレビ 代表取締役 光野 稔先生 水曜4限「福井の文化と社会」

「福井県の現状と課題」をテーマに福井を盛り上げるためにまちづくりに尽力されている方3名をゲストスピーカーとして招き、それぞれ「今までどのように取組みをされていたのか、これから福井を活性化するためには」というテーマで講義が行われています。光野先生は「福井出身の学生はもちろん、福井県外から来た学生にも福井に是非興味を持ってもらいたい。福井を元気にするため取り組んでいる方や福井で頑張っている企業の方たちにお話をいただき、学生たちに福井の良さ、頑張っている企業を理解してもらい、卒業しても福井に住んでもらえるようにしたい」と熱い思いをお話いただきました。

学生は、授業が福井の現在・未来に関する内容であるため、ゲストスピーカーの話を真剣に聴いていました。(取材日:平成28年11月16日)



福井工業大学 杉浦 宏季先生

金曜3限「スポーツ科学」

「健康と体力」をテーマとして、現在の自分自身の体力を知るために、大学混成でグループを作り、みんなで協力して7種目の体力測定を行っていました。学生は、先生から提供された同年代平均値と自分達の測定値とを「平均値より高かった、低かった」と比べ合い、様々なことを学んでいました。

(取材日:平成28年11月18日)



金曜4限「基礎健康科学」

授業をのぞいた当日は、生活習慣が影響して起こる「虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)」をテーマに、どのような症状が発生するのか、若い人でもなりうる病気であるため生活習慣(禁煙やきちんとした食生活、運動の継続)に気をつける必要性があることをお話しをされ、学生は熱心に聴いていました。途中、ブレイクタイムとして「コーラを1日10缶を飲む生活を30日続けたら身体にどのような影響が及ぶのか」という海外の事例なども紹介され、コーラを好む世代の学生は真剣に耳を傾けていました。

(取材日:平成28年11月18日)



11月11日、COC事業の実施前から地域での教育・研究を重点に取り組んでいる高知大学を訪問した。高知大学の最大の特徴は、地域コーディネーター(UBC:University Block Coordinator)を県内4地域に常駐させ、地域産業振興監および地域支援企画員と連携体制を整えており、地域住民の声を聴き、共に考え、大学等との調整を行っているとのことである。また、「えんむすび隊」という県内各地を訪ねる1dayツアーを行い、参加した学生が自ら地域の抱えている問題を認識し、



UBCおよび学生への
ヒアリングの様子

住民と共に解決策を考える。これによって、学生と地域との繋がりが構築されると説明を受けた。

12日はNPOと学生が企画運営しているイベントへ同行し、UBCが地域住民や大学、企業等の調整役であることを感じた。さらに、地域住民と学生は信頼関係にあり、地域一丸となって取り組んでいる様子も窺えた。こうした地域貢献が、地元への就職に繋がるとUBCも期待していた。

一方、COC+事業においては、高知も福井同様、1回生から地域の活性化等に興味・関心を持った学生を対象に「地方創生推進士」を取得するプログラムに取り組んでいる。地方創生推進士にはロゴもあり、今後の商品開発や学生の就職支援等にも活かせる

可能性があると感じた。(福井工業大学 吉村朋知先生・伊豆蔵庫喜先生より寄稿いただきました。)



学生団体と地元中学生による
ブースの様子

原子力技術WG

11月5日「学生とシニアの会」を福井大学文京キャンパスで開催！

日本原子力学会シニアネットワーク連絡会(SNW)の方々13名を招き、「学生とシニアの対話会」を開催しました。参加した学生は、基調講演とシニアを交えた討論会を通じて、我が国における原子力エネルギーの将来について学ぶとともに、自分たちの意見を出し合いました。この対話会は、福井大学と福井工業大学で共同で開催している行事です。今年度から新設された福井大学工学部機械・システム工学科の1年生をはじめ、福井大学と福井工業大学で原子力を学ぶ大学生・大学院生計105名が参加しました。(原子力技術分野WG長・玉川洋一先生より寄稿いただきました。)



10月から11月にかけて ワークショップ「0→1」を生む〇〇力の磨き方 —福井の未来を一緒に作ろう— を開催！

10月から11月に掛けて毎週木曜日に、福井県経営品質協議会とCOC+の共催でワークショップ「0→1」をFスクエアで開催しました。全6回にわたり、県内大学生と企業の方が交じり合い、“何もない状態から何かを生んで育てる力”“失敗を繰り返し成果を生む力”課題を発見して対策を生む力”を磨きました。ある時は、レゴブロックで高さを競い合い、ある時は、廃校になった校舎を再活用するアイデアを劇で伝えたりと、毎回違ったテーマがあり、参加者は内容の濃い時間を過ごしました。



学生の声

今回「0→1」のワークショップに参加して、新たな事業を立ち上げる際に、気をつけなければならないことを数多く学びました。その中でも一番印象に残っているのは、思考だけに偏らないようにすることが成功の近道であるということです。自分も含めて多くの人がこれに該当していると思うので、今後はそのようなことがないように気をつけたいです。(福井大学2年生)

編集後記

11月からCOC+事務を担当している折笠です。8月末に福井県民となった福井県初心者です。今回のMonthly Letter作成にあたり、Fスクエアでの授業を見学するなどして、福井の素晴らしいことをたくさん発見しました。取材などにご協力いただきました先生方や学生の皆さん、ありがとうございました。年内最後の号となります。良いお年をお迎えください。そして来年も良い年でありますように。



福井大学COC+
事務局メンバー